

2【学習班】（今年度の実践例）

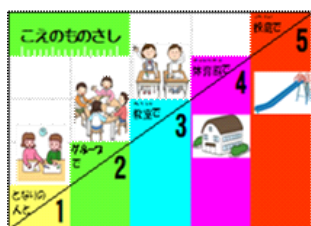
（1）小幡小学校の実践内容



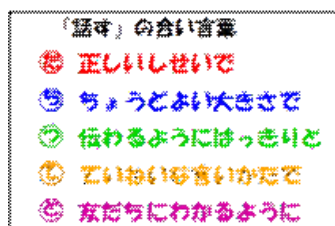
①おぼたのまなび（かんらのまなび）等

昨年度に引き続き、学力向上のためにはまず、学習規律の共有と徹底・常時指導が大切だと考え実践した。年度初めに、学級担任から下にあるような掲示物を使用しながら確認し共通理解を図った。また、全校児童で統一して取り組むルールなどは、教室に掲示し常に意識し活動できるようにした。また、教職員も、自学級以外の授業や児童に対して、できていなかったり気が付いたりしたことがあった場合には、積極的に指導を行い、小幡小学校の児童を全教職員で育てていくようにした。

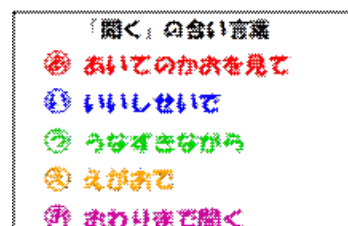
学習規律の徹底(掲示物)



声のもののさし



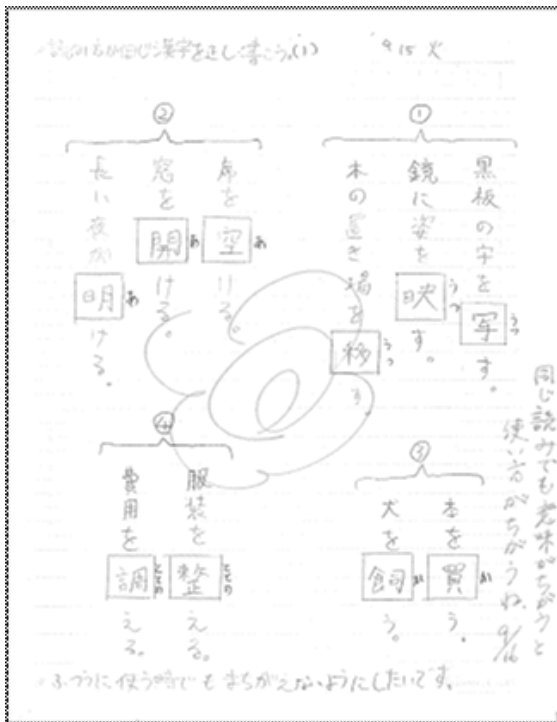
言語環境の整備



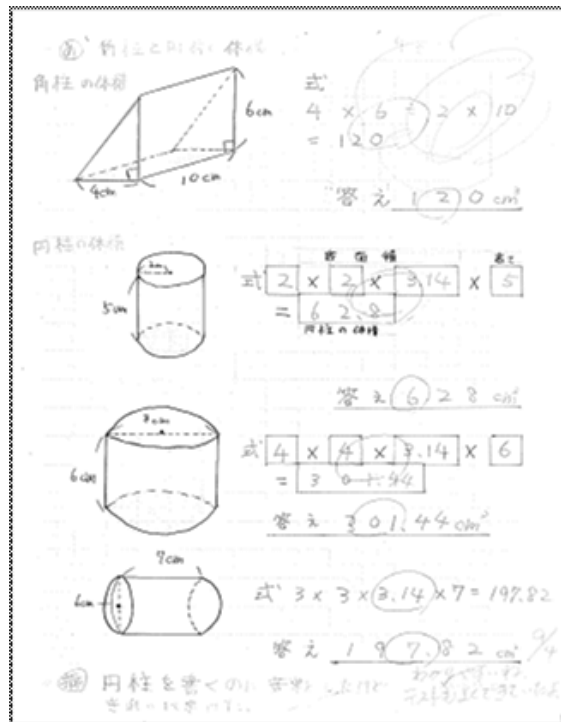
②家庭学習

学力向上委員会の家庭学習班が中心になり、自主学習の取組を推進した。年度初めに自主学習用のノートを購入し、1日1ページを目安に取り組んだ。また、各学年ごとに、「学年×10分」の目標時間を設定した。学習内容については、読書を含め「自主学習のすすめ」(資料1)を参考にしながら取り組んでいる。児童の取組について、ノートのコピーを教室に掲示し取組例を紹介した。(資料1・2)





資料 1



資料 2

③成果と課題

- ・持ち物や授業の始まりの準備等、学習規律が定着してきた。アンケート結果からも、「教科書・ノートを机の左上にそろえて、待っている。」の質問に対して、ほとんどの学年でAB評価で100%または100%に近い数値であった。また、「提出物や課題などに、計画的に取り組み、期限を守って提出している。」の質問についても、AB評価で90%以上の高い数値となっていた。このことから、学習規律等が身に付いていると考えられる。
- ・自主学习ノートの裏表紙に「自主学习のすすめ」を貼り付け取り組んだことで、自主学习の内容のヒントとなり、児童にとっては取り組みやすかったようだ。また、自主学习ノートをコピーして教室に掲示することにより、取り組み内容が分からない児童や、毎日同じような取組になっている児童にとってはとても参考になった。掲示された児童は、励みにもなり意欲が高まった。
- ・アンケート項目「本をたくさん読んでいる」については、他項目と比較するとAB評価の割合が低かった。コロナ禍の影響で、図書館の利用が制限され児童が自由に利用できなかったためと考えられる。今後、利用制限が緩和されてきたら、積極的に利用するよう指導していきたい。
- ・アンケート項目「最後まで、粘り強く学習している。」「目標をもって、計画的に学習している。」については、どの学年もAB評価合わせて86%以上であった。児童は目標を設定し、自分が頑張りたいことなどを考え実践に移すことができている。読書についても、目標を立て、自主的に取り組めるような「読書〇〇週間」等の方策を講じ、自ら取り組み続ける力、自ら学び続ける力を育てていきたい。

(2) 福島小学校の実践内容

「かんらのまなび」を通して主体的・対話的で深い学びの実現に向けて、①校内研修、②読書指導の充実に取り組んだ。

校内研修では、研修テーマに「児童の、教師の、『主体的・対話的な深い学び』を目指して」～算数科において自分の考えをもち、説明し合う活動の工夫を通して～を設定した。

本校の児童の中に、既習事項の理解が十分とは言えない児童や、算数科の学習を好んでいても、人前で発表したり、自分の考えを伝えたりすることに苦手意識をもつ児童が多いことが CRT II テストの分析結果から読み取れた。そこで、今年度は、児童一人一人が話し合いの場面で説明する力、表現する力を伸ばすことにつながる授業の在り方を探った。また、

その中で、主体的・対話的で深い学びにつながる授業作りにも目を向けた。

具体的には、はばたく群馬の指導プランⅠ及びⅡを参考に、単元構想シート・授業構想シートを作成・活用することで、「学習スタンダードの定着」と、その中で、子どもたち相互の深い学びにつながる「課題提示のもち方（めあての明確化・焦点化）」「問い返し、練り合いの場の工夫」について研修の場を設定している。

<研修の具体的な内容>

①既習事項を手がかりに

- 本時の学習は、これまでの学習の延長線上にあることに気づき、前の時間との「何が違うのか?」、「どこがつかえるか?」を捉えさせ、明確な「めあて」を立てさせる。
- 具体的な操作活動（並べる・数える・測る・組み立てる・比べる・図に表す・・・）を充実することで、自分の考えの根拠が体験的な活動からイメージできるようにする。



②「説明し合う活動」⇒「ふりかえり」の充実

- 課題に対して自分の考えをもち、伝え合い、相手の考えを聞いて、よりよい考えに気づく活動を通して、思考を深めながら、より確かな知識を獲得し理解を深める。

- 教師対一人の児童の発言のやりとりではなく、児童が考えを自分の言葉で説明し、それに対して他の児童が付け足したり、疑問や反対意見などを交流したりする中で、考えを練り上げていく。

③読書指導

昨年度のアンケートの考察から、読書に関する項目に課題が見られたため、読書活動の充実を図った。具体的には、①朝行事（朝読書）の回数を増やすこと。②読書の記録を「私の本棚」に留めること。③学校司書を活用（図書に関する興味関心が高まるような授業を TT で行う）。といった実践をした。これらの取り組みを通し、読書活動の充実を図っている。



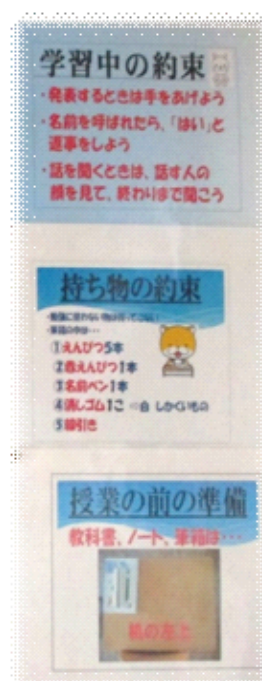
(3) 新屋小学校の実践内容

①「かんらのまなび」の実践

昨年度、甘楽町の小学校では、小幡小で先行実践されてきた「おばたのまなび」を「かんらのまなび」として、小学校3校共通での実践を始めた。

「学習中の約束」「持ち物の約束」「授業の前の準備」等の写真（右を参照）を教室の壁面に貼り、児童への周知を図った。どの教室にも同じ写真を掲示することによって、統一感をもって指導の徹底を図ることができた。始めのうちはなかなか定着しなかったが、時間を追うごとに浸透していった。

例えば、【教科書・ノートを机の左上にそろえて待っている。】（3枚目の写真に関連）の項目では、3回目のアンケートでほとんどの学年で90%を超え、高学年では100%であった。



②読書に関する実践

ア 「読書マラソン」の取組

本校では、右図のようなシートを使って動機づけを図っている。

朝の読書や休み時間、家での読書等、どの時間でもよいので、読書をしたらそのページ数を記録し、それを累計していくシートである。ページ数を累計していくので、本の厚さ等に関係なく確実に増えていく楽しみがあり、毎日担任に提出する児童もいる。

読書マラソン (ページ 名前)

読書の日	題名	ページ数	ページ数	累計数	読書

イ 学校司書による指導

甘楽町では一人の学校司書が4校を回って指導しており、本校でも毎月3日程度、勤務している。令和2年度1学期には、図書室の利用法、本の分類の仕方、ブック

トーク、「読書感想文・課題図書の紹介と書き方」等について指導していただいた。

ウ 読書推進キャンペーンの取組

本校では第3回までのアンケートで読書についての数値が改善されなかったため、令和2年9月に読書推進キャンペーンを行った。以下がその結果である。(数値はAとBの合計・%)

	第1回(R元年6月)	第2回(R2年1月)	第3回(R2年7月)	第4回(R2年9月・追加)
1年生			60.6	84.8
2年生	86.4	79.5	83.7	100.0
3年生	73.3	74.2	68.8	90.6
4年生	57.4	76.7	70.5	100.0
5年生	79.2	65.3	65.3	95.8
6年生	63.2	59.5	48.6	100.0

③成果と課題

- ・「かんらのまなび」について写真入りで教室掲示ができたので、指導の徹底が図れた。
- ・全体として、2回目のアンケートでは1回目と比べて大きな改善が見られた。
- ・読書についての指導では、読書推進キャンペーンを実施した結果、児童が熱心に取り組み、追加アンケート（第4回）では数値に大きな改善が見られた。（上の表を参照）
- ・約3か月の臨時休業等のため、2→3回目のアンケートではあまり改善が見られなかった。

(4) 甘楽中学校の実践内容

学力向上を目指した『学び続ける力』の定着に向けて、昨年度から継続した取組を行ってきた。「かんらのまなび」における小学校からの学習規律の継続、「めあて、まとめ、振り返り」を工夫した授業実践、「家庭学習の手引き」を活用した1年生の自主学習の定着、学びに向かう素地になる読書活動を行ってきた。

①読書活動

ア 朝読書

先生、図書委員、図書司書の小柳先生それぞれのおすすめ本を、各クラス分のボックスに分けて教室に置き、校内でローテーションすることで、自分からは手に取らないようないろいろなジャンルの本も見られるようにした。身近にある本を読んでみることで、読書を習慣づけていく工夫を行った。



イ 読書レビュー

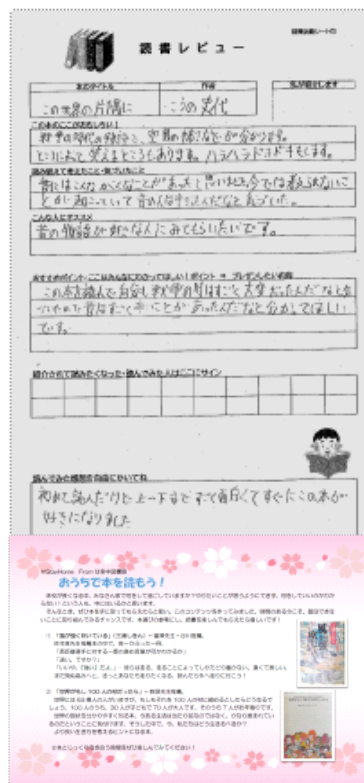
自分が読んだ本について、読み終えての感想、どんな人にすすめたいか、すすめるポイントなどを期間中の最終週に記録し、それぞれが読んだ本についてプレゼンテーション（話し合い活動）をすることで「伝える力」へとつなげていきたかったが、話し合い活動が難しい状況になってしまったので、レビューを教室でいつでも見られるようにしておいた。友達のレビューなどを見ることで、新たな本への興味をもち、読書への意欲が継続するようにした。

ウ 休校期間中の取り組み

図書主任と連携して、おすすめの本を学校 WEB に掲載した。本のたまかなあらすじを紹介することで興味をもち、生徒が家庭でも読書に目が向くようにした。

②成果と課題

- ・ 朝読書の時間以外にも給食準備中や昼休みなど、読書をする姿を見られるようになった。
- ・ 今まで読んだことのない本を読んで、考えが広がった生徒も見られた。
- ・ 休校期間もあり、本のローテーションも継続的で十分な取り組みにまですることができなかった。
- ・ 生徒によっては「学びに向かう素地」として読書の習慣が定着するまで、今後も継続して取り組んでいく必要性を感じた。



3【思いやり班】（今年度の実践例）

(1) 実践内容

仲間と支え合える力、ピアサポートのできる児童生徒の育成を目指し、9年間を見通したソーシャルスキルトレーニング・グループワークの指導計画を作成し実施した。また、児童生徒が自分の行動を振り返るための「思いやりアンケート」を行い、児童生徒の思いやりに対する意識向上を図った。更に教職員のピアサポートに対するスキル向上のため、講師を招き研修を行った。

①9年間を見通した指導計画の作成と実践

<小学校の実践>

令和元年度は、町内の小学校3校で、同一の指導計画を作成し指導を行った。

【目指す児童の姿】

- | | |
|----------------|---------------------|
| ①上手な話の聴き方ができる | ②上手な頼み方、誘い方、断り方ができる |
| ③あたたかい言葉がけができる | ④もめごとを解決できる |
| ⑤協力できる | ⑥自己肯定感を高めることができる |